

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2025年11月分)

2025年11月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[2025年国家予算案の採択\(20日\)](#)

●[コシャラツツBH通商・経済関係大臣による上級代表宛の嫌がらせ行為及び国際社会の反応\(20日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[トウズラにおいて大規模火災発生\(4日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[BH憲法裁判所におけるドディック前RS大統領の第二審判決に関する上訴の棄却\(4日\)](#)

●[RS大統領選の前倒し実施及び暫定結果\(23日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[カッラスEU外務・安全保障政策上級代表のBH訪問\(3日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ヴァーデフル・ドイツ外務大臣のBH訪問\(16日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[コニツツ市訪問\(11日\)](#)

●[相木大使の BH 中央選挙管理委員会委員長訪問\(13日\)](#)

●[令和 7 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ヤブラニツァ市診療所及び救急車整備計画」、「ロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所 X 線撮影装置整備計画」 贈与契約署名式\(17日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

●[サラエボ・プロチェ間の国際列車の開通\(9日\)](#)

(3) 民間セクター

●[フェミニサイドに抗議する行進の実施\(16日\)](#)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●FRONTEXの本格的な活動が開始(1日)

1日、欧州国境沿岸警備機関(FRONTEX)は、欧州各国から100名以上のスタッフを派遣し、BH国境警備隊に対し、追加の機材搬入、トレーニングの提供及び日々の業務改善を通じた、国境管理の強化、越境犯罪との撲滅、情報共有システムの改善等の本格的活動を開始した。FRONTEX事務局長は、過去3年間で他の西バルカン諸国に対して支援を継続した結果、90%の不正入国の減少に貢献してきたことを強調しながら、これらの協力は、特に空港での共同オペレーションにおいてすぐに目に見える形として結実するだろうと語った。

●2025年国家予算案の採択(20日)

20日、BH上院は、2025年BH国家予算を緊急会合で採択した。今年は、BH内での政治的妨害により、予算の採択が1年ほど遅延した。当初の予定、今年10月の時点で、2026年の予算案が提出される予定だったが、未だ発表されていない。同予算案は、今月11日、BH大統領評議会が提出したもので、セルビア系議員の懸念材料となっていたBH国営放送(BHRT)を含むBH文化機関への予算項目が除かれた形で、今月17日、BH下院は緊急手続きで採択していた。

●コシャラツツBH通商・経済関係大臣による上級代表宛の嫌がらせ行為及び国際社会の反応(20日)

20日、コシャラツツBH副首相兼通商・経済関係大臣は、シュミット上級代表宛に、ナチス親衛隊(SS)のヘルメット及び悪意を含む書簡を送付する嫌がらせ行為を行い、これに対し、PICメンバー国を中心に国際社会(独、英、

蘭、EU、伊、米、仏、日)は厳しい批判を行った。コシャラツツ氏による同書簡の中には、ヘルメットについては、人類史上最も暗い時期に、我々の同胞を殺したあなたの祖先であるナチスのものであると言及し、シュミット氏はナチス軍の伝統を尊重する者である(ママ)といったスキャンダラスな内容が含まれていた。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●トウズラ・カントン政府(内務省)に対する大規模抗議活動(2日)

2日、トウズラ・カントンにおいて、未成年者の売春目的での人身売買に加担した罪で、8名(うち4名は警察官)が逮捕された件に対し、数千人の市民が抗議デモを行い、説明責任を求めると共に、同内務省警察長官、同省監査役会、同カントン政府の総辞職及び前倒し選挙の実施が要求された。トウズラ・カントン首相は、臨時議会を招集し、事実の究明及び汚職対策体制の構築に向けた協議を行う意思を明らかにした。

●トウズラにおいて大規模火災発生(4日)

4日、トウズラの老人ホームにおいて火災が発生し、17名が死亡、数十名が負傷した(14日時点)。出火原因は、ラジオ受信機の接続ケーブルの導体がショートしたことによると説明された。コムシッチBH大統領評議会議長、ニクシッチBH連邦首相、トウズラ・カントン首相、プチッチ・セルビア大統領等が弔辞を表明し、同月6日は、BH連邦及びブルチュコ特別区において追悼の日として多く市民が喪に服した。その後、同施設長が辞任し、消火及び警報設備を含む不十分な安全基準及び組織的怠慢による被害拡大に関する疑惑が持ち上がり、同カントン内務省に対する責任追及が続いている。

イ スルプスカ共和国(RS)

●BH憲法裁判所におけるドディック前RS大統領の第二審判決に関する上訴の棄却(4日)

4日、BH憲法裁判所は、ドディック氏の上訴に関する受理可能性及び法的評価に関し決定を下した。同裁判所は、BH裁判所の判決(6月12日)及び決定(8月6日)、BH中央選挙管理委員会(CEC、8月18日)の決定に対して、同氏が提出した上訴を受理不可能として棄却した。同裁判所は、具体的な判決及び刑事手続きの全体を見た場合に、公正な裁判を受ける権利が侵害されたという印象を特に与えることはなかったと判断し、上訴人が上記の判決に対して、仮保全措置を求めたことについて特に検討する必要性は無いと判断した。

●バニヤ・ルカ基礎裁判所のドディック氏のSNSD党首としての地位に関する訴えの差戻し(4日)

4日、バニヤ・ルカ基礎裁判所は、ウズノビッチBH裁判所判事の書簡(10月20日送達)を再度CECに向けて差し戻した。同書簡は、ドディック氏は資金調達方法を問わず、公務及び法人における職務を終了しなければならず、政治団体も法人資格にあるため、同氏がSNSD党首を務めることができないと主張しており、その登録の管轄権のある同基礎裁判所に対してCECを通じて転送されたもの。

●BH検察庁によるドディック前RS大統領等に対する捜査停止(4日)

BH検察庁は、ドディック前RS大統領、ステバンディッチRS国民議会議長及びビシュコビッチ前RS首相に対し、「BH憲法秩序に対する攻撃」容疑で実施していた捜査を証拠不十分として停止する旨を発表した。なお、本件は、今年3月、ドディック前RS大統領が「BH違憲機関(司法機関及び捜査機関)の決定不履行

に関する法律」に署名し、BH裁判所及びBH検察庁、国家捜査・保護庁(SIPA)、BH高等司法検察評議会(HJPC)等のBH国家機関のRSエンティティ内での活動を禁止したことを理由に捜査を開始したもの。

●ドディック前RS大統領のヘイトスピーチに対する罰金(18日)

18日、CECは、同月11日の東サラエボ市での選挙運動中にドディック前RS大統領がヘイトスピーチを行ったとして、所属政党の独立社会民主主義者同盟(SNSD)に対し、3万KMの罰金を科すことを決定(賛成5票、反対2票)した。なお、本決定では、「ド」前RS大統領による「ボシュニャクは「アマーバ(amoebae)」で、「臣民(subjects)」であり、「自分は、イスラム教徒のための大統領には二度となることはない」という発言、「セルビア系の街である東サラエボにおけるさらなるイスラム化を許してはならない。多かれ少なかれ、トルコ人ほど嘘をつく者はいない。強大なムスリム・ナショナリズム及び政治的イスラムの復権に反対する」という発言が問題視された。

●BH憲法裁判所によるSNSDの選挙資格に関する上訴の棄却(19日)

19日、BH憲法裁判所は、前倒しRS大統領選に向けたSNSDの政党登録資格の有効性に関する10月10日のBH裁判所判決の上訴を棄却する決定を下した。同裁判所は、本上訴の申立事由は、ブカノビッチ「正義と秩序のために(ZPR)」党首自身のBH憲法上の集会・結社の自由(第2条第3項)の侵害に関連したものではないと決定し、同上訴を棄却した。

●RS大統領選の前倒し実施及び暫定結果(23日)

23日、11月23日、スルプスカ共和国(RS)大統領選挙が実施された。BH選挙管理委員

会の暫定結果(24日午後時点)では、総投票数:439,897票(投票率:34.79%)、開票率:99.72%(全投票所のうち)を記録し、シニシャ・カラン(独立社会民主主義者同盟(SNSD)、RS与党)氏が、217,324票(得票率:50.3%)、ブランコ・ブラヌシャ(セルビア民主党(SDS)、RS野党)氏が、208,955票(得票率:48.37%)の結果となり、現時点で、現与党候補の得票率が上回っている。一方、RS野党からは、ドボイ、ズボルニク、ラクタシで投票捜査が行われた旨の異議申立てが行われている。

●RS指導部とハンガリー首相及び外務大臣との会談(26～27日)

26日、ドディック前RS大統領は、トリシッチ＝バビッチ大統領代行及びカラン次期RS大統領候補と共に、23日の前倒しRS大統領選以降、初めての外遊先としてハンガリー・ブダペストを訪問し、オルバーン・ハンガリー首相と会談した。続く、27日も、シーヤールト・ハンガリー外務大臣が、バニャ・ルカ大学名誉博士号授与式のため、RSを訪問し、「ド」前RS大統領、「ト」RS大統領代行、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、「カ」次期RS大統領候補、ブディミルRS内務大臣と会談した。

●BH憲法裁判所におけるRS国民議会結論の無効化(28日)

28日、BH憲法裁判所は、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク・メンバー及びBH下院の議員14名の要請に基づき、BH中央選挙管理委員会(CEC)によるドディックRS大統領(当時)の職務終了決定を否定したRS国民議会の結論の一部(修正後の結論における項目4、項目7、項目10)につき、BH憲法における法の支配及び権力分立に関する原則

に合致しないと結論づけ、採択日に遡って無効とした。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●カッラスEU外務・安全保障政策上級代表のBH訪問(3日)

11月3日、カッラスEU外務・安全保障政策上級代表がボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)を訪問し、ツビヤノビッチ大統領評議会セルビア系メンバー及びベチロビッチ同評議会ボシュニャク系メンバーと面会した後、EUFORブトミール基地で演説した。同演説において、「カ」代表は、「ボン・パワーの問題に関して、国内当局が意思決定能力を示した時点で、国際社会による監督は段階的に廃止されるべきであり、EU加盟国として国内機関がその統治と意思決定の責任を負うことを望んでいる。しかし、十分な意思決定能力が無ければ、それは不可能である」と述べた。

●欧州委員会の年次報告書の公表(4日)

4日、欧州委員会は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)のEU加盟プロセスに係る本2025年度の年次報告書(2024年9月から2025年9月が対象期間)を公表。BHは2016年にEU加盟を申請し、2022年12月には加盟候補国の地位が与えられ、2024年3月に加盟交渉開始が決定されたが、これ以降、国境管理法及び情報保護法の採択、FRONTEX地位協定の署名等のごく限られた進展を除き、改革は停滞していると評価した。

●国連スレブレニツァモニュメントの除幕式(17日)

17日、米・ニューヨークの国連ビルにスレブレニツァ・ジェノサイドの犠牲者のためのモニ

ュメントの除幕式が開催され、ベ地炉ビッチBH大統領評議会ボシュニャク・メンバー、ラグムジャ国連常駐BH代表が参加した。

(2) 二国間関係

●ギンケル米臨時代理大使とコナコビッチBH外務大臣の会談(13日)

13日、ギンケル当地米臨時代理大使は、コナコビッチBH外務大臣と会談し、南部相互接続プロジェクトを推進することの重要性を強調し、ボスニア・ヘルツェゴビナの指導者に対し、迅速な行動とこのプロジェクトの実施継続を求めた。一方、「コ」大臣は、より強力な経済発展と投資誘致の前提条件として、ボスニア・ヘルツェゴビナの安全と安定の維持の重要性を強調した。

●ヴァーデフル・ドイツ外務大臣のBH訪問(16日)

16日、ヴァーデフル・ドイツ外務大臣はBHを訪問し、シュミット上級代表、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、コナコビッチBH外務大臣等と会談した。「シュ」上級代表との共同記者会見において、「ヴァ」大臣は、デイトン和平合意の原則及びBHの主権は守られなければならない、EU統合に向けては、2022年10月に設定された具体的なコンディショナリティが満たされなければならないため、ドイツは法の支配と民主主義の強化に向けてBHを支援する準備ができているとした上で、シュミット上級代表は民生部門におけるデイトン和平合意の履行責任を担い、非常に重要な存在であると語った。

(3) 日・BH関係

●コニッツ市訪問(11日)

11日、相木大使は、ヘルツェゴビナ・ネレトヴァ県コニッツ市を訪問し、チャティツ同市市長と会談を行いました。会談では、同市に日本企業が進出していることも踏まえ、協力関係を更に強化していくことを確認しました。また、市長との会談後、同市に進出している日本企業「ツバキ・ナカシマ社」のコニッツ工場を視察訪問しました。同工場では、主に自動車産業に欠かせない精密ローラーが生産されています。



(写真: 訪問時の様子)

●相木大使の BH 中央選挙管理委員会委員長訪問(13日)

13日、相木大使は、ボスニア・ヘルツェゴビナ中央選挙管理委員会(CEC)のカラバ新委員長を訪問し、CEC の現在の取り組みと課題につき説明を受けました。相木大使は、公正な選挙の実施は民主主義の根幹であり、独立しプロフェッショナルな CEC の役割を重視していると述べ、その尽力を高く評価するとともに、今後も、国際社会の一員としてその活動を支持していくと述べました。



(写真:訪問時の様子)

●令和 7 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ヤブラニツァ市診療所及び救急車整備計画」、「ロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所 X 線撮影装置整備計画」 贈与契約署名式(17日)

17日、相木大使とヤブラニツァ市診療所ブディム・ホンド所長及びロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所シャコティッチ所長との間で、草の根・人間の安全保障無償資金協力事業「ヤブラニツァ市診療所及び救急車整備計画」及び「ロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所 X 線撮影装置整備計画」に関する贈与契約への署名を行いました。

今般、日本政府は、ヤブラニツァ市診療所に対し救急車及び産婦人科病棟の整備のために 115,305 ユーロ、ロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所には X 線撮影装置のために 78,994 ユーロの供与を決定しました。本計画により、ヤブラニツァ市診療所では年間約 7,000 人以上の患者、ロパレ市ローサ・ハジヴコビッチ診療所では年間約 3,000 人の患者に直接裨益する予定です。



(写真:署名式の様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●工業生産指数

2025年10月の工業生産指数は、季節調整後数値で前月比3. 2%プラス。前年同月比0. 7%マイナス。

●雇用／失業率

2025年9月の失業者登録数は31万6159人(うち女性18万8311人)で、前月比では1. 9%マイナス、前年同月比で2. 6%マイナス。

●平均給与

2025年9月の平均給与(手取り)は1, 585 KMで、前月比で名目賃金は0. 4%プラス、実質賃金は0. 2%プラス。前年同月比で名目賃金は14. 7%プラス、実質賃金は10. 1%プラス。

●消費者物価指数

2025年10月の消費者物価指数は前月比0. 4%プラス。前年同月比で平均4. 3%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月から変わらず。

●貿易収支

2025年10月のBHからの輸出総額は141. 61億KM(前年同期比5. 7%増)、BHへの輸入総額は249. 57億KM(前年同期比4. 6%増)。貿易収支は107. 96億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●サラエボープロチェ間の国際列車の開通(9日)

9日、BHで初となる国際列車(BH・サラエボークロアチア・プロチェ間)の開通式が、BH連邦鉄道(ZFBH)及びクロアチア旅客鉄道(HZPP)の代表者と共に執り行われた。同区間は、金曜、土曜、日曜の週末に運行予定。

(3)民間セクター

●フェミニサイドに抗議する行進の実施(16日)

16日、モスタルにてアルディナ・ヤヒッチ氏が殺害される事件発生。その容疑者としてアニス・カラジッチ氏が現行犯逮捕された。事件発生後、被害者に対して、脅迫的なメッセージを送信し続けていたことが発覚したことを受けて、同月18日にはフェミニサイドに抗議する市民たちの行進が実施され、1000名を超える市民が参加した。当地EU代表部は、BH当局に対し、ジェンダーに基づく暴力(GBV)への組織的な対応と法執行を強化することを求める、と声明を発した。